

令和6年度 前期卒業証書授与式 式辞

夙川の桜の葉も山吹色に色付きはじめ、朝夕の風にも秋の気配が感じられる爽やかな今日の佳き日、PTA会長様をはじめ、ご来賓の皆様、保護者の皆様のご出席を賜り、ここに令和6年度兵庫県立西宮香風高等学校前期卒業証書授与式を挙行できますことは、この上ない喜びであり、心より感謝申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与いたしました9名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。教職員一同、心よりお祝い申し上げます。今日の卒業の日を迎えるまでには、必ずしも楽しいことばかりではなかったと思います。それでも、挫けることなく初心を貫き、今、新しい道を求めて本校を巣立っていく日を迎えたみなさんに対して、深い敬意を表したいと思います。

今日の日を待ち望んでこられた保護者並びにご家族の皆様、本日は誠におめでとうございます。立派に成長し学窓を巣立っていくお子様の姿に、喜びもひとしおのことと存じます。勉学・友人・進路の悩み、健康への気遣いなど、共に悩み、励まし、喜び、お子様を支えてこられた苦勞はいかばかりかと拝察いたします。今日まで慈しみ育てられました皆様に、心からの敬意を表しますとともに、これまで多大なご支援・ご協力を賜りましたことを、教職員を代表まして厚くお礼申し上げます。

さて、卒業生の皆さんがこれから迎える時代は、テクノロジーの進化により、あらゆるものを取り巻く環境が複雑さを増し、将来の予測が困難な状況にあります。さらに、新型コロナウイルスの流行や、地球温暖化に伴う気候変動、台風や地震といった災害など、予測が困難な事象が次々と起こっています。このような現代社会ではありますが、自分の夢に向かって大きく羽ばたいてゆく卒業生の皆さんに、我々教職員が願うことはただ一つです。卒業後、どうか幸せになって欲しいということです。このことについて、お話しをさせていただきます。

日々の生活の中で幸せを感じて生きていくことができれば、人生は喜びに満ちたものになります。そして、理想の人生と言えるでしょう。しかし、毎日幸せを感じている人はどのくらいいるのでしょうか。実は、日本の幸福度は「世界幸福度ランキング」によると、先進国中最下位の62位とのことです。

日本における「幸福学」研究の第一人者である慶応義塾大学の前野隆司(まえの たかし)教授は、幸せは目指すことができるものと断言します。この考え方が最近話題となっており、テレビや雑誌などメディアでもよく紹介されています。前野教授は、人間がどのようなときに幸せを感じるのかを明らかにするために、1500人にアンケート調査を行い、コンピュータによる因子分析によって4つの「幸せになるための因子」を導きました。その4つの因子を紹介します。

1つ目は「やってみよう」因子。自分のやりたい小さなチャレンジを積み重ね、失敗や成功を繰り返し、自分の成長を感じることで幸福に繋がる。

2つ目は「ありがとう」因子。多様な人とのつながりを大切にし、そこで感謝の気持ちを持っている人、思いやりがあり親切な人は幸福を感じる。

3つ目は「なんとかなる」因子。いつも前向きで、自分のいいところも悪いところも受け入れる、どんなことも「なんとかなる」と楽観的に捉えることができ、チャレンジする人は幸せを掴む。

4つ目は「ありのままに」因子。他人と比較することなく、自分の好きなことや得意なことをどんどん突き詰めていくことで幸せを感じる。逆に、常に他人と自分を比べて「自分はダメだ」と思い込む人は、どんどん幸福が逃げていく。

この4つの因子がバランスよく満たされれば人は幸せになれると前野教授は主張します。つまり、まとめると①自分のやりたい小さなチャレンジを積み重ねる、②常に感謝の気持ちを持ち続ける、③どんなことも「何とかなる」と前向きな気持ちを忘れない、④ありのままに自分らしく生きる。この4つを実践することで、幸せになれるということになります。皆さんは香風高校で上述の4つの因子に繋がることを多く学び、そして実践してきました。卒業した後も自分のやりたいことに情熱を燃やし、常に感謝し、いつも前向きに、ありのまま自分らしく人生を歩んでください。そして、必ず幸せになってください。

新たなステージへと向かう卒業生の皆さんにとって、これからの人生は必ずしも順風満帆とは限りません。しかし、社会は必ずみなさんの活躍を必要としています。社会の変化にしなやかに適応しながら、自分を見失うことなく、本校で培った諦めない精神を糧に力強く羽ばたいてください。そして、将来この課題多き社会を支え、牽引する人財となってくれることを期待しています。みなさんのご健康とご多幸、そしてこれからのご活躍を心より祈念し、式辞といたします。

令和6年9月30日

兵庫県立西宮香風高等学校長
桑田 圭介